

「水土を守る人々」では、農業や農業用水の役割とこれらが持つ多面的機能等が十全に発揮されていくために、農業水利施設等の維持管理を支える人々の日常にスポットを当てて、その取り組みを紹介することで、農業農村整備や多面的機能の発揮が「人」の支えの上に成り立っていることを伝えていきます。
※不定期で掲載いたします。

しょうせい

庄西用水を管理する唯一無二の職員～庄西用水土地改良区 主任 中田 克明 氏～ 富山県砺波市

今回「水土を守る人々」で紹介するのは、水土里ネット庄西用水（庄西用水土地改良区。以下、「庄西用水」）に勤務する主任の中田^{よしあき}克明さんです。庄西用水は富山県西部、散居村で有名な砺波平野を流れる一級河川庄川の左岸で実施中の国営庄川左岸農地防災事業の受益地(6,212ha)の大部分を占める、4,877haの受益地に網の目状に張り巡らされた



庄西用水土地改良区 中田克明主任

79.3kmの農業用水路及び16箇所¹の分水場等を管理しています。この79.3kmの農業用水路の維持管理、分水調整をほとんど担当しているのが中田さんです。

中田さんは、高校を卒業してから庄西用水へ就職し、20年目です。20年間、全ての施設の維持管理を担当してきました。丁寧な対応の積み重ねにより、組合員及び土地改良区の役職員から厚い信頼を得ています。

1. 79.3kmもの用水路を維持管理する唯一無二の職員

庄西用水には5名の職員がいますが実質現場に赴いて施設管理業務をこなしているのは中田さんです。

16箇所¹の分水場でのかんがい期の水量調節や水路工事に伴う開閉作業も大変な作業です。昭和30年代に整備された水門は木製ゲートで、全て手動でハンドルを回さなければならないといいます。こ



日々の木製ゲート開閉作業

これらの水門は百回以上回さないで開閉が出来ず、筋肉痛に悩まされているそうです。

2. 地元農家からの信頼も厚い中田さん

地元農家の対応も中田さんの担当です。晴天が続くと「水が届いていないぞ」という連絡、逆に大雨が降った日には「水路から^{いつすい}溢水するぞ」などと連絡が入るため、その都度対応に追われているとのこと。

毎日の用水路のパトロールでもっとも注意しているのが「水路内のゴミ、特に水路内の安全ロープに引っかかった草の除去です。」と中田さんは話してくれました。少しでも草が引っかかるとたちまち水の流れが悪くなり、下流の農家からすぐに苦情が入るそうです。



水路内の草の除去

中田さんは、「日々地元の対応に苦勞もしているが、問題が解決した際にさりげなく言われる、「ありがとう」の一言が大変嬉しいです。自分が毎日管理・調整している用水路を通して、各地区へ水が供給でき、秋には米の収穫ができるというのは大変喜ばしいことで、やりがいのある仕事です。」と話してくれました。

インタビューを通じて、日々地道に管理業務を行う真面目な人柄の中田さんだからこそ、地元農家からの信頼も厚いのだと強く感じました。

3. 土地改良区における苦勞話

中田さんの実家は農家ではなく、就職するまでは土地改良区の存在すら知らなかったそうです。また、出身地が庄西用水の管外で土地勘がないことから、受益地内の大字名や水路の名称、水路位置、合流点・分水点などを覚えるのにとにかく必死だったと振り返りました。

また、就職当時、改良区の職員は皆さんが、自分の親と同じ年代であったためコミュニケーションが上手くいくか不安もありましたが、皆さんが親切に接してくれ、特に野澤事務局長には日頃から管理業務の専門用語や施設管理方法、分水調整のやり方など丁寧に教えていただき、今では庄西用水の施設管理の要になっていると思います。

4. 職場の上司から

「毎日の施設の維持管理だけではなく、庄西用水のホームページの更新、広報誌などの電算関係の仕事も全て1人で担っており、中田主任がいなくなると庄西用水が立ち行かなくなる。」と話したのは、中田さんに絶大な信頼を寄せる同改良区の森谷参事です。「79.3kmの水路を1人で管理するのは並大抵のことではなく、今後、実施中の事業が進捗するにつれて業務が増えるため、中田主任の後継者が必要だと考えている。しかし、ストマネ事業等が始まり特別賦課金の負担がある中、後継者の人件費のため経常賦課金の負担増を求めるのは難しい。」と、後継者を採用したくても、なかなか採用できないという庄西用水が抱える悩みについても話されました。



森谷参事(右手前)と中田主任(右奥)

5. おわりに

最後に、改良区として今後取組みたいことについて伺ったところ、「今後、国営庄川左岸農地防災事業、附帯県営農地防災事業、県営ストマネ事業が完工し、次々と新しい管理施設が増えていくが、国営庄川左岸農地防災事業で整備する排水管理システム等を有効に活用することで施設管理の効率化を図り、今まで以上に迅速・丁寧な対応が行えるよう努めていきたい。また、小水力発電事業も完成に近づき、少しでも組合員の負担が軽くなるようにしていきたい。」と、今後も組合員第一の姿勢で頑張っていきたいと熱く語ってくれました。

【北陸農政局庄川左岸農地防災事業所調査設計課、農村振興局設計課】